

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400401		
法人名	社会福祉法人きづき会		
事業所名	グループホームきづきの家(結ユニット)		
所在地	出雲市大社町杵築西2629		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400401-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和7年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前の生活に戻していくよう徐々に食事作りなど包丁を持つ機会を増やしたり、米を研いでもらったり、盛り付けをしてもらったり、洗い物をしてもらったりと役割を持ってもらい、日々の生活に張り合いを持って生活出来るよう支援してきました。遠足も再開し、家族の方には2か月に1回の広報誌で日々の生活など分かりやすいように写真を多めにお届けしました。利用者18名をユニットの壁をこえ、職員全員が状態把握するよに夜勤は両ユニットできるように普段から支援していました。今後も職員全員で同じ方向を向き、質の高いサービスを提供できるよう協力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2013年4月に開設された木造平屋建ての2ユニット18名のグループホームです。住宅地の中にあり、町内会にも加入され、地域行事にも参加されています。コロナ5類移行に伴い従来の生活が徐々に戻ってきている状況です。日々の生活の中で利用者は食事作り、盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ等の役割を持たれています。ドライブ遠足も再開され久しぶりにみなさんで外出を楽しめました。家族へは2か月に1回の広報誌で写真を多めにし、日常の様子を届けられたり、LINEを使い様子を見て頂く工夫もされ、安心して頂き信頼関係が築けるよう細やかに連絡されています。18名の利用者を職員全員で支援できるように情報共有を行ない、利用者の状態を把握されています。これからも職員全員で同じ方向を向き、協力しながら、質の高いサービスの提供できるよう目指しております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、職員全員に周知できるよう努めている。事業所理念を踏まえ、職員が同じ方向を向いてケアできるよう努力している。	事業所理念を職員は周知し、同じ方向を向いてケアができるよう努め、外部評価の機会を利用され振り返りが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事等にも、数年前までは参加していたがコロナの影響で現在は来ていない。しかし、関係が途切れないようにきづきの家の様子などは発信している。	町内会にも加入されており、コロナ禍前までは地域の行事にも参加されていました。関係性が途切れないように広報誌の回覧は継続しておられます。地域の伝統的な行事である吉兆さんの際にはホームにも来て下さいます。	地域の保育園との交流も中断されていますが、ビデオレターでの交流で利用者の笑顔が見られるよう工夫されたら良いかと思えます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し、町内の方にも回覧している。また、年に一回は勉強会等も行っていましたがコロナ禍になり現在は来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月一回運営推進会議を実施。入居者の方にも参加して頂き日々の様子や現状を報告。そこで、頂いた意見をサービスへ活かせるよう努力している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域から自治会長、民生児童委員、市の職員、利用者、家族も参加され開かれ、日々の様子や現状報告が行われ、頂いた意見をサービス向上に活かせるよう努めておられます。	利用者のためにサービス向上に活かせる、より良い運営ができるよう、避難訓練の際に地域の協力を得たり、昼食試食会を行ない食後の様子を見て頂く機会を持たれる事も一案だと思えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、運営推進会議での連絡や相談をおこなっている。また、必要な時には窓口に出向いたり電話で相談したりしている。	主に、運営推進会議での連絡や相談をされています。また、必要な時には出雲市の窓口に出向いたり電話で相談をされています。最近ではノロウイルスが流行しているため感染状況の情報の連絡があります。また、2ヶ月に1度介護相談員の訪問があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束適正化委員会を開き検討をしている。また、年に2回勉強会を行ったり研修会に参加したりし学びを深め職員間で身体拘束をしないケアを周知徹底している。	3か月に一回、身体拘束適正化委員会を開き検討されています。また、年に2回の勉強会や研修会に参加され、学びを深め職員間で身体拘束をしないケアを周知徹底されています。スピーチロックには日常的に気をつけ、不適切な声掛けをしないよう心掛けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を実施し職員全員で考え、日々のケアに繋げている。また、日々のケアで気になる事は管理者やユニットリーダー中心に考え適切なケアについてを周知している。	3ヶ月に1度虐待防止委員会が開かれており、指針も策定され、勉強会を開き日々のケアの振り返りが行われています。また、日々のケアで気になることはないか管理者やユニットリーダーを中心に考え適切なケアについて周知されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおられず学ぶ機会を持つことが出来ていない。しかし、今後利用される方がおられる時の為定期的に制度についての勉強会を実施する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の際は、契約書や利用料について丁寧に説明を行い同意を得ている。法改正の時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望については、運営推進会議や面会の際に聞き取りを行っている。聞き取りをした意見や要望はすみやかに全職員に共有しケアに生かしている。	利用者は日々の会話の中から聞き取りをされています。家族には運営推進会議や面会の際に意見・要望を聞かれており、ケアプラン変更時にも意向を確認されています。2ヶ月に1度写真を多めに載せた広報誌を出され、利用者の様子を知らせておられます。また、LINEも利用し様子を知らせるなど細やかに連絡されています。現在、面会は居室で15分間です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を実施。そこで、出た意見等はリーダー会で検討している。また、普段から職員の意見が言いやすいような環境作りに努めている。	毎月ユニット会議を実施し、そこで出た意見や要望については、管理者とリーダーの会で検討されています。また、普段から職員が管理者へ話しやすい環境作りを心掛け風通しのよい職場環境になるよう努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課を実施。その結果をもとに、待遇面に反映している。また、職員の個人面談も行い今後の課題やモチベーションがあがるように努めている。	法人全体で年に1回人事考課を実施され、その結果を踏まえ給与等の待遇面に反映されています。また、面談も行い、課題や目標について話す機会を設け職員のモチベーションがあがるよう努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事考課制度を実施。各職員が自己評価し、責任者が最終の評価を行う。年間で研修計画を作成し各事業所や法人合同研修会等で実施。外部研修にも、参加している。	法人の人事考課制度を実施し、各職員の自己評価、各事業所責任者による評価が行われています。また、年間の研修計画を作成し、各事業所や法人合同研修会等を実施され、外部研修にも参加されています。オンライン研修も利用されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会を、ズームで開催している。 コロナもあり、外部での交流の機会は持てていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際、本人やご家族に要望や不安な事を聞きとり安心して生活できるような関係づくりに努めている。また、なんでも話せるような雰囲気作りも意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネを中心に、ご家族から不安な事や困っている事を聞き取りしている。また、職員も面会時など積極的に声を掛け信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期での、必要としている支援についての見極めは難しいが情報収集した内容をまとめ職員が統一したケアを行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事、出来ない事を職員が見極め出来る事は行ってもらい職員と利用者が暮らしを共にする物同志の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の場が施設へ移っても本人と家族との関係が途切れないように会話の中でご家族の話をしている。また、面会時間に制限はあるがその中でもご家族との時間を大切に過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で様々な制限はあるが、その中でも自宅へ帰りたい、近所に買い物に出かけ馴染みの場所との関係が途切れないよう努めている。	コロナ5類に移行後も制限がありますが、自宅へ帰られたり、近所に買い物に出かけ馴染みの場所との関係が途切れないよう支援されています。	馴染みの場所や人に会われた後には昔話をし頂き、回想法につなげられる事も良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性を、普段の関わりの中から把握しやすい関係づくりが出来るよう努めている。また、より良い関係が気づけるよう職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られる際には、情報提供を行いこれまでの生活が継続して行えるよう心掛けている。また、法人内での、転所の際は様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望を取り入れ、ケアに活かしている。要望の聞き取りが困難な方には、ご家族に聞き対応している。ご本人が何を望んでおられるのか考えながらケアするよう心がけている。	本人が何を望んでおられるかを考えながらケアができるよう心掛けておられます。要望の聞き取りが困難な場合は、家族から聞き取りをされています。	利用者の思いや意向から本人の生きがいや生きる目標につなげられると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、入居前に聞き取りをした生活歴をふまえその人らしく生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を実施し、体調の変化に注意している。また、自分で伝えられない方も多いので普段の会話や表情の中から変化に気づけるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に、きづきの家でどのような生活が送りたいのか意見を聞き介護計画書を作成している。また、作成したプランを職員間で共有し統一したケアに努めている。	部屋担当を中心毎月モニタリングを行ない、計画作成者と部屋担当で話し合い素案作り、他の職員、医師の意見、本人・家族の意向を取り入れながら本案を作成されています。評価見直しは基本的には6ヶ月に1度、体調変化があれば随時行っておられ、作成したプランは職員で共有され統一したケアになるよう努めておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別記録に記入し、情報共有している。職員間では、申し送りや連絡ノートを活用して情報共有している。	タブレットを活用され、日々の様子やケアプランの実践など記録され情報共有が行われ、実践・見直しが行われています。申し送りや連絡ノートを活用しての情報共有、記録の読み返しも行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズやご本人ご家族の思いにできるだけ柔軟に対応できるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で、どのように地域資源を活用していくのか難しい所もあるが出来るだけ地域との関わりのある生活を大事にしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医をどこにするか相談し決めている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医、訪問看護、家族と相談し適切な医療が提供できるようにしている。	基本的には本人・家族が希望されるかかりつけ医ですが、現在は全員協力医をかかりつけ医にされています。往診は2週間に1回、訪問看護は週1回来られます。他科受診はコロナ禍からはホームの受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いなさ園の訪問看護ステーションと連携している。週に一回の定期訪問や、24時間体制で相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、速やかに情報提供書を作成し安心して入院生活が送れるようにしている。また、入院中の様子も面会や電話にて確認しホームでの生活に繋げている。	入院時には日頃の様子等、情報提供が行われており、病院の地域連携室と連絡を取り合い、相談、入院中も面会や病院からの情報収集し早期退院を目指し、退院カンファレンスでホームでの生活の注意点も確認されています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や看取りについて説明し同意を経ている。また、ACPIについての聞き取りを行い書面にし職員間で情報共有している。	入居時に、重度化した場合や看取りの説明を行ない同意を得ておられます。終末期に向けての聞き取りを行ない書面にされ職員間で情報共有が行われています。基本的には看取り対応も行っておられますが、医療行為が増え対応が難しい場合など法人の特養への移行も検討されています。ケアの方向性など主治医や訪問看護の助言のもと家族とも相談しながら支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、学ぶ機会を作りいざという時に動けるよう備えている。また、事故発生時には振り返りを行い次に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災訓練や水害訓練を実施しスムーズに避難誘導できるよう努めている。コロナ禍になり、地域との協力体制も薄れているので見直す必要がある。	年2回の避難訓練が実施されています。事業継続計画(BCP)の策定も行われており、法人特養へ避難される水害訓練も行われています。備蓄品の用意もされています。地域との協力体制はありますが、コロナ禍からの影響があり、再度確認される必要性を感じておられます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、きちんとした言葉使いや対応を心掛けている。	排泄、入浴については、マニュアルにプライバシー保護について記載されており、人生の先輩であることを忘れず、きちんとした言葉遣いや対応を心掛けておられます。接遇研修も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが引き出せるよう、話やすい雰囲気作りをこころ掛けている。待つ姿勢を意識し、自己決定がしやすいようにしている。答えが出にくいようであれば、選択肢を用意し希望やいいやすいよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の体制によっては、職員の都合を優先する場合もあるがゆっくりと本人のペースで過ごせる時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪やひげそりなど、身だしなみには気をつけている。また、一人で行うことができない方たちにも、できるだけ職員がお手伝いしその人らしさを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けなど、感染対策を行いながらできる範囲で行っている。洗い物なども役割りとして行ってもらっている。	ホームではご飯と汁物を用意され、その他の物は外注されています。月に1回食事作りを行っておられ、盛り付けや洗い物など役割を持ってもらっています。季節に応じた行事食、敬老会の時にはテイクアウトも利用されたり、誕生日にはケーキを出す工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、職員間で情報共有している。その人に合った食事形態で提供し見直しが必要な方には都度話し合い対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自分のできる方には見守りをし、介助の必要な方は状態に合わせて必要な部分を介助している。拒否が強い方もおられすべての方の把握は難しい。	利用者の状態に合わせた対応が行われており、義歯は夜間週2回洗浄液に入れ清潔保持されています。歯科の往診もあります。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけている。定時の時間で案内しているが個々の排泄パターンを把握しできるだけトイレでの排泄を心掛けている。また、パットやパンツの見直しも行っている。	排泄記録をつけ、個々の排泄パターンの把握をされ、声掛け、誘導、介助等それぞれの利用者の状態に応じて支援されています。最期までトイレで排泄して頂けるよう努めておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションに参加してもらったり、食事や水分摂取量の把握をし自然排便を促している。しかし、難しい場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数や時間は職員の都合になってしまっている。すべての方の希望は聞けていないが、時間帯の工夫や同性介助など出来るだけ希望に添えるよう努力している。	基本は週2回、結ユニットは午前、縁ユニットは午後入浴されており、特に休まれる曜日はありませんが、時間帯の工夫や同性介助等できるだけ希望に添えるよう努めておられます。。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整や室内の照明を調節し安眠できるよう気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてのファイルを作成し、皆さんがどんな薬を服用されているか分かるようにしている。薬の変更や臨時薬が処方された時などは連絡ノートを使い情報共有している。	薬は薬局から配達され、職員がダブルチェックされています。個人ファイルにも薬の情報が貼り付けてあり、薬の情報情が確認できるようにされています。薬の変更あれば連絡ノートに記入し情報共有を行ない、注意して見守り、変化が見られたら医師に連絡されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴から、好きなこと役割を見つけて行ってもらっている。また、季節事の行事や誕生会などを計画し楽しみのある生活が送れるようにする。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもあり、外出する機会は少ない。しかし、ご本人やご家族の節目の行事など家族の一員として参加できるよう支援している。	家族の協力を得ながら、外出・外泊の機会を持たれています。本人や家族の節目の行事には参加できるよう支援されていますが、本人の希望する所への外出支援はコロナ前と比べると少なくなっています。これからの季節お花見に出かけられる予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、自己管理が出来る方がおられないが金庫でお預かりしてほしい物や必要な物はそこから現金を持ち買い物に出かけてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、できるように支援している。面会の制限もあるので、lineなども活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、常に清潔にしている。リビングでは、月ごとに壁絵を作成し季節感を出したり花を飾ったりしている。	リビングや廊下は季節の絵等を月毎に一緒に作成し飾っておられます。また、温度管理、換気にも気をつけ、日当たりも良く明るい環境です。浴室が寒く感じられたため暖房器具を使用し、暖め、利用者の体調変化に気を付けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごしたり、テーブルごとで会話されたりよい距離感がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、自宅で使用されていた家具や家族の写真などを持ち込んで頂き安心した、居心地の良い空間で生活が送れるようにしている。	自宅で使用されていた家具や家族写真を持って来てもらい、安心して落ち着いた生活になるようにされています。一人ひとりに合った生活の動線に配慮したベッドや家具の配置が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の生活の動線を考え、ベットやダンス等を置くようにし自立した生活が送れるよう支援している。		